

内務省ヨリ建言ノ答議

自今府縣奏任以上ノ進退ハ固ヨリ正院上申
シ各省關係ノ事務ハ其省ニ稟議スル從前ノ例
規ニ從ハシム

是條件ニ於テハ異議ヲ容レス

其管轄ハ判然本省ニ屬セシム

是大ニ不然其所以ヲ論セン治民ノ職ハ

天皇陛下親ラ任シタマヒ其下ニ府知事縣令ヲ

置セラレ牧民ノ官トナス故ニ全國人民ハ統テ之ヲ

天皇陛下管轄シ其命任ヲウケ分テ之ヲ府知



事縣令管轄ス内務省ハ其章程ニ所謂國內
安寧保護ノ事務ヲ管理スル所ニシテ府縣ヲ管
轄スル所ニアラス之ヲ外國ニ徵スルモ其例左ノ如シ
佛國ニ於テ「ナポレオン」^{ナポレオン}波烈翁^{ナポレオン}在位ノ時ノ例

一 皇帝

全國ノ民ヲ治ム

州知事

一州ノ民ヲ治ム

邑知事

一邑ノ民ヲ治ム

一 國內事務宰相ハ治民ノ權アル官負ニアラス州知
事ノ處置ノ内已ノ省ニ關スル處置ノ檢査ニ任セ
ラレ乃チ法度及ヒ國家支配ノ規則ヲ施行セシムル

事ヲ掌ル

英國内務省ノ例

一 緊要ノ職務ハ内國中一般ノ平穩ヲ警保ス

一 囚獄監督官ヲ命シ一般ノ牢獄ヲ總轄ス

一 萬民健康高買工人等ニ關涉スル方法ヲ監督

ス

一 諸製造場鑛山等ノ監督官ヲ命シ其職務ノ章

程ヲ定ム

一 病院貧院學校等及ヒ諸慈惠ノ建設ヲ吟味為

監督使ヲ命シ及其方法ヲ草ス

215819

2
昭和25年10月8日

以上五則ノ餘條ハ悉ク舉ゲサレトモ孰レモ直ニ
管轄スルノ例ナシ州縣ノ審判官ヲ大壘官ニ於テ

命スルニモ惟内務省ノ手ヲ經ル而已ニシテ猶我府
縣ノ奏任官ヲ太政官ニ於テ命スル内務省ノ具
狀ニ據ルカ如シ

右於當課致審議其處如此御座ル内務省建議ノ
如キ往年民部省御取設ノ節ノ覆轍ヲ蹈キ様ノ儀付
御採用不相成方可然ト存キ也

明治七年二月七日

制度課

伊藤博文文書

府縣官制當初各藩トシテ治ノ体裁タルヲ
以テ位置甚高リ委任甚重ク之ヲ太政官ノ
直管ニ屬ス而シテ位置委任ノ過重トシテ當
時頗ル專權自恣ノ政アリ治績統一ヲ
得ルニ至ラズ蓋兵馬ノ餘積弊ノ後執亦
不得也モアリ幸未ノ秋廢サ藩ノ令下ルリ官
制始ラ府縣一例トシ漸次旧弊ヲ革メ新政
ヲ布キ統諸日ニ其序ヲ正シ事務月ニ其理ヲ
精ク於是一定規則ニ依遵セシメ其治務

ヲ升燃ナラレタル為ニ假ニ縣治條例ヲ頒布シ既
往過重ノ專權ヲ収メテ委任ノ章程ヲ明シシ
處務ノ循序ヲ飾正ス而シテ其中申牒指令ヲ
請フ必ズ之ヲ主任ノ各省ニ上稟シ主任定
難キ事件ト秦任以上ノ官身分進退ノ具
狀ハ正院ニ上請シテ旨ヲ乞フ此レ後前習
慣ニ從ヒ現行ノ式例タリ竊ニ惟ルニ正院
ハ各省ノ上奏制可ラ請フ所ニシテ府縣ノ
各省ニ指揮ヲ請フ又猶各省ノ正院ニ
上請スル如此則流屬順序次凡可以

ニシテ目ノ漏ニ從テ擧リ枝ノ幹ニ由テ生ズ其
理固當レリト云ヘシ然ニ其管轄ノ名猶
太政官ニ屬シ其公文申牒指揮ヲ受リ
ルニ多ク各省ニ在リ其間又少シク正院ニ
在リ是レ地方申牒區分判定ニ難キ事
雜出スル所以ニシテ同一ノ事件或ハ正院ニ於
テ指令シ又ハ其省ニ於テ指揮スルモノアルニ至ル
甚タ公例同一ノ仲裁ニ害アル而已ナラス其所
屬殆ト兩岐紛錯ノ疑アルニ近シ向ニ大藏
省民政事務ノ主管ナルヲ以テ其卿ニ府

縣奏任以上官負進退ニ關與スル權ヲ
許シ其事務ノ所關亦居多ナルニ由リ其
實被管ノ体ニ歸セリ然リトモ其名未
タ全ク管理ニ屬ス此レ名實相符セザル
患ナシト去可カラス此レ名實相符セザル
人民生理ノ安寧ヲ掌ルルヲ任ス其責重
ヤ固ヨリ民情ヲ盡シ民益ヲ圖リ生理安
寧ヲラシメシテ可カラズ而シテ其情ヲ盡シ其益
ヲ圖ラシトスルニ親シク其民ヲ牧教督スルハ
府縣ノ官ニアリ故ニ本省ノ府縣ト政理

聯絡スル綱舉リ目張ルカ如ク氣脈貫通
スル電動キ光發スル如クテラサレハ其統理ノ
記譜ヲ正シテ民治ノ周洽ヲ致スヘカラス故
ニ自今府縣奏任以上ノ進退ハ固ヨリ正
院ニ上申シ各省關係ノ事務ハ其省ニ稟
議スル迄前ノ例規ニ從ハレテ其管轄ハ
判然本省ニ屬セシメハ名實相符シ而
歧紛錯ノ患ナク官制ノ位置モ亦自ラ其
當ヲ得ヘキカ謹テ愚衷ヲ陳シテ高裁ヲ
仰ク

